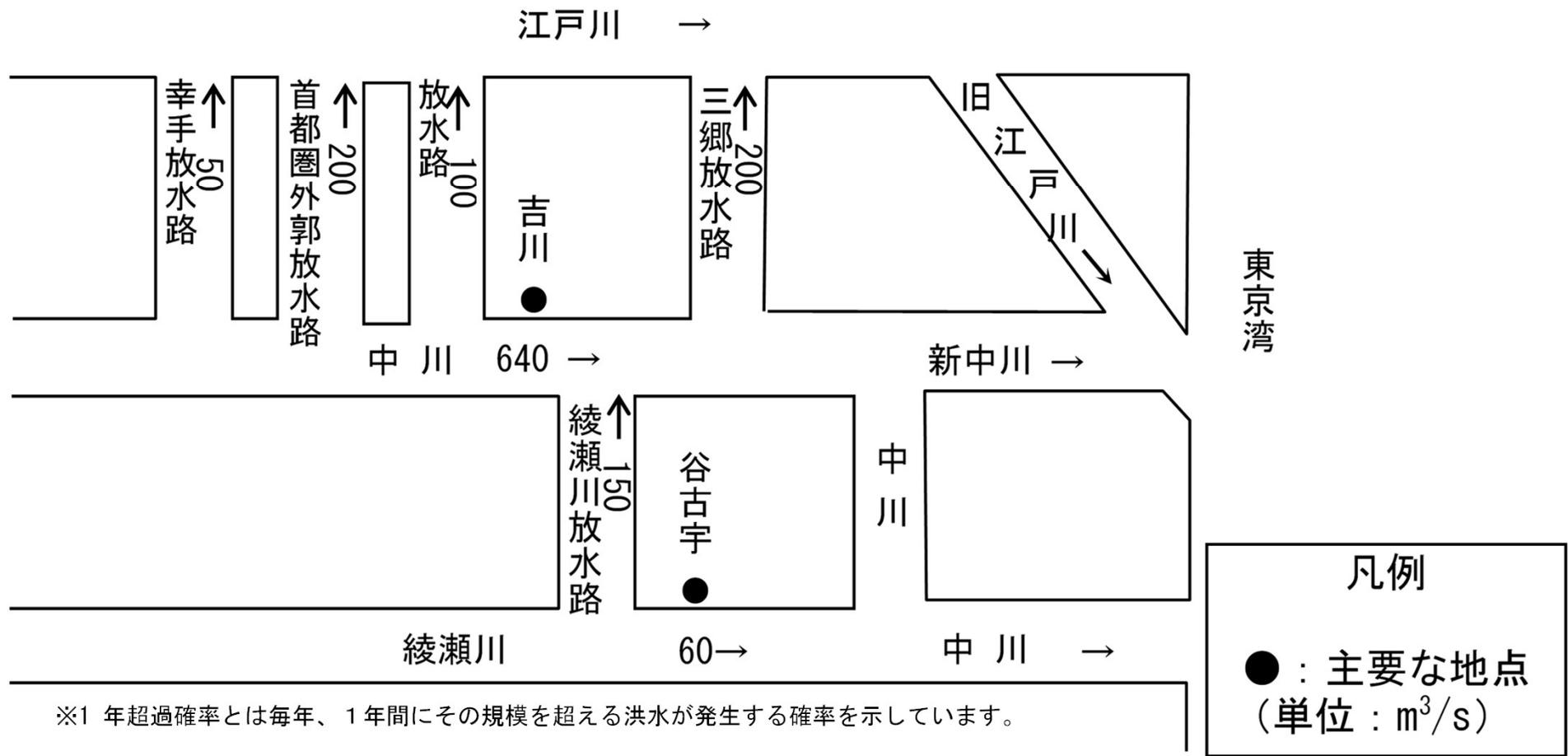


# 中川・綾瀬川河川整備計画の目標（案）について

令和5年1月17日

国土交通省 関東地方整備局

■ 我が国の社会経済活動の中核を担う東京都及び埼玉県を貫流する中川・綾瀬川の氾濫域には、人口・資産が高度に集積していることから、その重要性を考慮して、戦後最大洪水である昭和33年9月洪水と同規模の洪水（年超過確率 $1/24^{*1}$ ）に対し、災害の発生の防止又は軽減を図り、総合治水の取組を前提に、河道整備において対象とする流量を、主要な地点吉川（中川）において $640\text{m}^3/\text{s}$ 、主要な地点谷古宇（綾瀬川）において $60\text{m}^3/\text{s}$ として、洪水による災害の発生の防止又は軽減を図る。



※1 年超過確率とは毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率を示しています。

中川・綾瀬川流量配分図（案）（単位:  $\text{m}^3/\text{s}$ ）